

題 言

一日28尺8寸のレコード

金をかけても、設備を良くしても、中々思ふ様に進まないものは日本の隧道工事である。進まない原因に就ては既に記者は幾度も處見を述べた。而して結局は作業する人間の問題であると云ふ事は既に識者の一致する處であつた。

隧道工事ばかりではない、恐らく仕事と言ふもの、興廢は總て其人間の問題であるが、特に隧道工事に於て我々は善良なる作業夫を養成するに至らず、また他からも之を求むる事が出来なかつた。従つて日本の隧道工事は最も遅れてゐた。

然るに晴天霹靂の如く日本の隧道工事に破天荒の進行を示したものが現はれた。それは本號に紹介した好間斜坑工事である。

好間斜坑工事で一日平均82尺餘の進行を出した事は、山の條件が良つたとは言へ確かに日本に於ける劃期的な新記録である。

世界に誇り得る日報

一日に六回又は七回も發破をかけた好間斜坑工事の一枚の日報は非常に尊い記録である。豫定表や計劃表ですら此の時間割に作る事は容易でない、然るに之は實際の記録其儘の日報である。記者も曾て此の位の時間割だけは作つて見たが、實行は其半分も容易でなかつた事を経験してゐる。

野外の工事ならば實際に於て決して歐米にヒケを取らない丈の腕が出来た様である。然し隧道工事は唯金をかけた丈では能率は舉らない、野外の工事と大變な相異である。

本號に掲載した一枚の日報は寫眞を見る眼には頗る無趣味な小文字の表であるが、實は世界に誇り得る日本の大工事の寫眞よりも以上に價值あるものなのである。

地方工事の合理化

帝都復興工事で眞劍に腕を磨いた技術者は今後全國各地方に出て地方工事に腕を振ふ機

會が多くなる事であらう。

所謂此の緊縮時代に一層の合理的施工が實行されねばならぬ。

最近相次いで完成しつつある地方工事の内特に此の傾向が伺はれるのは嬉しい事だ。

大阪地下鐵の概要

大阪市の地下鐵工事は四月七日から御堂筋に土留用のシートパイル打を初めた。大阪市の地下鐵工事は兩側の建築物に地盤的影響を及ぼす事、東京のそれよりも大であらうと見られてゐる。或は東京の方ではそんな經驗を繰返してゐるから、大阪では特に大事を取る氣になつたものかも知れない。

今後施工上に面白い實例が得られる事と思ふ。本號には其の地下と高架とを含む大阪市高速電氣軌道の全計畫と沿革の一部を報道するに止めた。

世界最大のプレカストチューブ

Estuary Subway の世界的大工事は鐵道省柳生技師の視察により我國に詳細に報道せらるる事となつた。

其の設計及び施工の要領は先年既に鐵道省より發表されたが、工事参考とし 豊富なる寫眞は最近鐵道協會で講演發表されたのみである。

本號より紹介せんとする工事寫眞は此の工事の全容を知るに足るものである。所謂沈埋式水底隧道工事の如何に大袈裟で然も至る處すべて用意周到なる合理的施工が行はれつつあるかを知り得るものである。本號は先づ隧道の驅体をなすべき大混凝土管の製作法に初まるものである。

西浦式ハネ上架桁機の讚

工事畫報三月號に紹介せる、ハネ上式架桁機に就ては未だ斯道先輩多數の意見を聞かないが、那波博士は最近鐵道協會に於て記者との會談中に『簡單なる工法を可とする點』に就て、充分なる讚辭を贈られた。

鐵道橋梁の先覺者として我國の大先輩の一人たる那波光雄博士が折紙をつけられたるは西浦氏の研究的努力が如何に尊きものであるかを知る事が出来る。